

Optional Reading 3 Dave's Last Ride
読み物 3 デーブの最後の走り

P.160

(1)

死亡事故

fatal accident [名詞] 死亡事故

昨日、1人の若者の乗ったオートバイがホーンベリー交差点で木に衝突し、その若者は死亡しました。

Hornberry Crossroads [固有名詞] ホーンベリー交差点

デイビッド・ウィールドンさん(19歳、バーズリー、ロング・レーン、フラット・マンション在住)は、ホーンベリー・ガーデン病院に運ばれましたが、そこで、搬送中に亡くなっていたことが確認されました。

on arrival [熟語] 着くとすぐに

一瞬、デーブは言葉を失った。

speechless [形容詞] 口がきけない

彼は想像していたのではなかった。

彼の名前がそこにあったのだった！

彼はただ、自分が夢を見ているのではないということを確認するために、再びその記事を読んだ。

article [名詞] 記事

デイビッド・ウィールドン。19歳。マンション。ロング・レーン。

それは彼だった。彼は死んだのだ。しかし、一体どうして？

彼は、そのページの一番上を見た。

「バーズリー・ポスト」と書いてあった。

The Bursley Post [固有名詞] バーズリー・ポスト

そこには何もおかしいところはない。

それは、いつもの彼の夕刊だった。

デーブは、一番右に日付を見つけた。

そうだ。ああ、なるほど。

3月1日か。3月1日？ありえない！

今日はまだ2月14日だった！

印刷ミスに違いない！

(2)

「ウィールドンさん、お尋ねの新聞についてですが…間違った日付の」

デーブは固唾を飲んだ。

swallow hard [熟語] 喉をごくりとさせる。固唾を飲む

P.161

彼は、もう悪い知らせは聞きたくなかった。

彼は、もううんざりだった。

彼はそれを聞きたくなかった。

「サントさん、言わないでください。」

keep ~ to oneself [熟語] ~を人に言わないでおく

私は知りたくないのです。」彼は言った。

「私は、ただ新聞配達の子がまだ来ていないため、今日の夕刊が遅れるということだけをお伝えしたかったのです。」

paper-boy [名詞] 新聞配達(の少年)

show up [熟語] 現れる

私が、自分で配達しようと思ったのです。

お伝えするのを忘れていました」

「まだ配達していないということですか？」デーブは尋ねた。

deliver [動詞] 配達する

「まだ1つも。実は、これから配達しに行くところなのです。」

as a matter of fact [熟語] 実は

デーブは気分が悪くなった。

彼は言った。「ありがとう、サントさん。」そして電話を切った。

ring off [熟語] 電話を切る

彼は、自分の死亡について何度も読んだが、それが起こることになっているのより2週間も前に、どうしてその記事が新聞に載っているのか、説明がつかなかった。

be supposed to happen [熟語] 起こることになっている

それは冗談なのだろうか？

誰かが騙そうとしているのだろうか？

try it on [熟語] だます

いや。ありえない。

その報告は、印刷してあったのだ。

be in black and white [熟語] 印刷されている

死亡事故。彼は、もう死んだのも同然だった。

be as good as dead [熟語] 死んだも同然である

彼には、生きる時間はあと2週間しか残されていなかった。たった2週間。

have two weeks left [熟語] あと2週間ある

突然、彼の顔は明るくなった。

brighten [動詞] 明るくなる、輝く

あるアイデアが彼の頭に浮かんだのだった。

pop into one's mind [熟語] 考えなどがふと浮かぶ

「そうだ、」彼は大きな声で独り言を言った。「そうだ。」

That's it. [熟語] ああ、それだ。まさしくそうだ。

(3)

毎日デーブは、新聞から切り取って造花の入った花瓶の下に挟んでおいたバーズレー・ポストの切抜きを見た。

cutting [名詞] 切り抜き

snip [動詞] 切り取る

trap [動詞] 挟んでおく

彼は「昨日」という文字を赤で丸をつけ、切抜きが一番下に新聞の日付を書いておいた。

draw a ring [熟語] まるで囲む

clip [名詞] 切り抜き

3月1日。